

女性管理職・女性管理職を目指す方のための交流勉強会

第3回大阪サクヤヒメ・トーク交流会

開催レポート

2018年7月12日、大阪商工会議所にて「女性管理職・女性管理職を目指す方のための交流勉強会 第3回大阪サクヤヒメ・トーク交流会」を開催。大阪サクヤヒメ表彰受賞者2名をお招きし、ご自身のキャリアに関するエピソードや、経験を通して得た「仕事をする上で心がけていること」などについてお話し頂きました。

ご登壇者

野地 小百合氏 関西電力株式会社 地域エネルギー本部 地域エネルギー部長

大枝 恭子氏 大同生命保険株式会社 広報部長



野地 小百合氏
関西電力株式会社
地域エネルギー本部
地域エネルギー部長

「管理職になって、仕事はとても面白く感じます。後輩には、絶対管理職になった方が良い！と心から伝えています」

私は平成4年に関西電力に入社しました。営業・広報・地域共生などのキャリアを経験する中で、男性が多い環境でどうすれば女性が活躍できるかという課題を持つようになりました。そんな折に、前職の株式会社かんでんCSフォーラムの社長に就任しました。当時、前任者が立ち上げた女性主体のマーケティングチームがあり、女性の私が社長として赴任したことで、この活動をさらに盛り上げようとチームが動き出しました。私自身も女性を応援したいと思っていたので、それが自社のビジネス拡大にもつながることがとても嬉しく、今までの仕事の中で最も印象強く残っています。

係長として初めて役職が付いたとき、8人くらいのチームを任されて、チームで仕事をするのが役職の醍醐味だと感じました。課長に昇進し、今度は組織のダイナミズムに触れることが出来て、また違う楽しみが見えてきました。管理職になると得られる情報量がとても増えます。別の部署の全く違う情報を繋げて、新しいビジネスに結びつけることができるようになり、仕事の面白さを感じます。出来る限り後輩に管理職を目指して欲しいと思っているので、自分自身の振る舞いにも気をつけ、面白さを発信することで管理職を目指す女性が増えるといいなあと思っています。



大枝 恭子氏

大同生命保険株式会社
広報部長

「身近な先輩としてみんなの話を聞き、頑張ろうという気持ちになる人を少しでも増やしていくのが自分自身の役割」

昭和 58 年に短大を卒業し、大同生命に入社しました。当時、女性は 3 年程働けば結婚退職をするという時代であり、入社当初は私も長く働くつもりではありませんでした。本社で 5 年ほど事務的な仕事を続けてきたときに、ずっとこのままでいいのかな、と思い始め 7 年目に総合職に転換し営業を経験しました。初めての営業は同じ会社でありながら、仕事は何もわからない状態。「井の中の蛙」という言葉は自分のためにある言葉だと感じるほどの衝撃を受けました。総合職のため、その後も 3 年に一度程の頻度で異動があります。3 年ごとに仕事が出来ない自分と向き合い、2 年程かけて克服し、また次へ異動というサイクルの繰り返しでした。

私は、管理職は目指すものというよりも、頑張った成果・結果としてついてくるものだと考えています。人材育成の部署で女性活躍を担当していたときに、中長期的な目標として全社で着実に推進していくために、社内で初めて女性管理職比率の数値目標を立てました。女性社員からは「数値目標を持つ必要があるのか」という意見も寄せられましたが、そのとき私は、「少しだけ意識を変えて、今までの自分よりもちょっとだけ頑張ってくればそれで良い。その積み重ねが結果的に女性管理職を作っていくことになる。」と伝えました。女性社員の意識を変えていくことが出来れば、女性の管理職も増えていくと考えています。

対話終了後、質疑応答・情報交換を行いました。子育て・介護中の部下への対応方法、管理職として求められる役割、女性管理職候補への支援方法などの質問にお答えいただきました。途中、登壇者から参加者への逆質問も行われ、和やかな雰囲気での交流が行われました。



質疑応答・情報交換のようす